

県人権教育研究大会でレポート報告



▲北岡さんにこの日の感想を尋ねると「楽しかった」と笑顔で話してくれました

これまでの地域交流会の活動を語る北岡肇さん

9月29日に上郡町で「第59回兵庫県人権教育研究大会」が開かれ、「地域社会と行政」の分科会で淡路ふくろうの地域交流会会長の北岡肇さんと入居者の北風章子さん、谷妙子さんが「元気な声がひびきわたる里に」と題して、レポート報告を行いました。

北岡さんから地域交流会の様々な活動の紹介とその活動を通じて、淡路ふくろうの郷が地域に根を張り、中学校閉校後の「中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター」設置へとつながり、今後地域起こしの起爆剤となることが期待されているとの報告がされ、他の地域の参加者からはいくつもの質問や感動の意見が寄せられました。

(総務・八木)



▲10月から始まった百歳体操

新たな取り組みはじまる
中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター

中川原町連合町内会と淡路ふくろうの郷が協働して立ち上げた「中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター」が開所して3ヶ月がすぎ、中川原町の皆様に向けた行事を定期的に開催できるようになってきました。

9月からは「陶芸教室」が、10月からは「いきいき百歳体操」がはじまり、多くの方の参加をいただいています。

他にも絵本、紙芝居の読み聞かせやパッチワークと、ふれあいセンターが中川原町のみならずが集まり、交流の拠点となるよう少しずつ前進しているように感じます。

また、地域の困りごとを地域住民で解決、軽減する「おたがいさま中川原」にも毎月依頼があり、依頼者と応援者の間で地域や世代を超えた新たな出会いと交流が生まれています。(神代)



▲陶芸教室に入居者の藤本さんも参加



▲見学に来られるかたも増えてきています

ふくろう新聞

<発行>
 特別養護老人ホーム
 淡路ふくろうの郷
 広報委員 会

洲本市中川原町中川原 28 番地 1
 TEL: 0799-25-8550
 FAX: 0799-25-8551
 ホームページ
<http://www.normanet.ne.jp/hyofuku/>

世の中どんどん便利になり簡単な情報が得られ、年齢を問わずいろんな人とネットでつながることが出来ます。しかし、国民が知りたい大事な情報が公表されないことが多く、便利さは必要ですが、くらしの実態や事実に基づく情報の発信と提供こそが問われています。

ふくろう新聞は、開所後毎月発行し続け74号を迎えました。今後ありのままの実践や暮らしをお伝えする広報紙をめざします。

洲本第一小学校との交流会



▲ハイチーズ！（星海ユニット）



▲みんなで協力（月川ユニット）



▲ケーキ作り（花木ユニット）



▲手話で自己紹介（山ユニット）



▲竜馬像と力強く握手する土居さん（97）

（相談：竹原）

100歳まで参加します！
第13回あわじ敬老のつどい

9月15日～16日にあわじ敬老のつどいに、入居者6名・職員2名で参加しました。

場所は、高知県の桂浜や坂本龍馬記念館などを見学しました。夜には、敬老会があり、新鮮な刺身やカツオのたたきなど美味しい料理をたくさんいただきました。

敬老のお祝いでは、97歳の土居文子さんが「100歳まで毎年参加します！」と力強く語っていました。又、来年も皆さんお元気に参加して頂きたいと思っています。

9月に誕生日を迎えられた月川ユニットの黒崎さんと勝楽さん。

「鍋料理を食べたい」というお二人からの希望があり、ユニット



▲自分から味付けする黒崎さん（右）

内ですき焼きを作ってみんなでお祝いすることになりました。

黒崎さん自ら味付けをして入居者と一緒に9月の誕生を祝いました。



▲勝楽進さん（83）と黒崎時安さん（83）

すき焼きでお祝い〜月川ユニット誕生日〜



県知事から100歳のお祝い 〜先山君子さん〜

9月26日、洲本健康福祉事務所の柳尚夫所長が県知事代理として来所され、11月に満100歳を迎えられる入居者の先山君子さんにお祝いの言葉を述べられ、県知事からの表彰状と記念品をいただきました。

先山さんの笑顔が輝いています。

料理講座は毎月第4木曜日に各ユニットの利用者様を数名選択して、交流を深めつつ、一緒に料理を行っています。メニューは、季節もしくは利用者様の好みなどに合わせて生活援助員と調理職員で相談しながら進めています。

また普段のメニューの中には料理を食べたり、作ったりして活では見られない新発見やメリハリ等も出来るので、私たちに

（生活援助員 涌井・石川）



旬を味わう～料理講座～



でも良い勉強になります。

ボランティアも募集しています

ので、よし良かったら、利用者様

と、そして思い出話と一緒に色んな料理を楽しませんか？ボラン

ティアの方々のご協力や利用者様のご意見を沢山頂きながら、

より良い料理講座をするように

職員一同頑張りますので、よろ

しくお願いします！

楽しんで健康維持

リハビリレクリエーション

淡路ふくろうの郷では定期にリハビリを兼ねたレクリエーション「リハビリレク」を開催しています。

9月20日(木)のリハビリレクでは、床に数字を書いた紙を置き、ボールを投げて点数を競い合うゲームを行いました。高い点数をめがけて集中してボールを投げる方、思わず高い点数に入り、びっくりされる方、さまざまな表情を見ることができました。

今後も、新しいリハビリレクを考え実施したいと思います。

（生活援助員：谷口 愛）



自ら作る喜びを～手芸講座～

淡路ふくろうの郷では毎月1回、手芸講座を行っています。

簡単な縫物を主に今年はいさぎや猫、麦わら帽子の飾り、髪飾りなどを作りました。

細い糸と針を使用し縫うのは入居者さんには大変かなと思っ

ていましたが、職員よりも器用に上手く縫っている入居者さんの姿をたくさん見て驚きました。

何よりも笑顔で参加して頂いているのが一番の喜びです。

毎月、参加を楽しみにしている入居者さんもいてとても嬉しく思い、これからも楽しく参加できる手芸講座の内容を考えていきたいと思ひます。

（生活援助員：船越）





▲手紙を投函する
吉川相談員

稲刈り間只中、「こころには」と家を訪問しました。最初の訪問宅はお留守でした。訪問した旨のお手紙とチラシ、ふくろう新聞を郵便受けに投函しました。

毎月1回定期的に、島内各地を回って家庭を訪問し、生活状況をお聞きしたり、センターの行事や福祉制度についてお話しさせていただき、豊かな生活に繋がるよう支援しています。
9月26日は南あわじ市三原地区11件を訪問しました。

豊かな生活を
目指して
巡回相談 (三原地区)

淡路聴覚障害者
センター 便り

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階

パソコンを駆使して趣味の旅行の計画を立てたり、戦争の話や今話題の尖閣諸島の話など時事問題にも精通しています。ミニ交流会への参加をお誘いしました。是非若いう者にも昔の体験を語り継いでほしいと思います。



ろう学校卒業後未就労の女性Aさん。
就労継続支援B型事業所「おのころ屋」へのお試しを勧めたところ、快諾、お試しでは「お菓子作りは楽しかった・・」と。
次に繋がるよう支援していきます。



▼小畠キヨミさん
89歳

体力が低下し、おのころの家への通所が困難になっていました。
ケアマネさんとも相談し、デイサービスを週2回に増やしてもらいました。



▼榎本敏明さん
77歳



▼塚本高郎さん
88歳

ご家族さんから、「今日はデイサービスに行っている」とのお話を。
温かいご家族に囲まれて生活されています。お便りをお渡ししました。



▲中田清美さんのご家族

20年あまり身障相談員を続けています。
難聴で1対1の会話は何とかできますが、会議の時は分からず、筆談を受けるときも。
他にも難聴の人もいるとのこと。要約筆記派遣制度を説明したところ、次回会議の時、会長に相談し検討してみるとのことでした。

お知らせ

10月23日(火) 10:00~17:30
~こころのケア相談~
“1人で悩まずに話にきてみませんか?”

10月24日(水) 10:30~17:00
移動相談：淡路市津名地区
午前：津名事務所 午後：家庭訪問

11月18日(日) 10:00~12:00
中途失聴者・難聴者のための
コミュニケーション方法についての学習会
場所：三原公民館

お問合わせはセンターまで
TEL0799-24-3850 FAX0799-26-1175

ろう女性Mさんの死から学ぶこと・・・

Mさんが、9月4日、46年という短い生涯を終えられました。彼女は生まれつき聞こえず、物心ついた時から多くの苦難を強いられていました。懸命に子育てをされていましたが、相次ぐ両親の死などで、気持ち不安定となり闘病されていました。
通訳者やサークル会員、社会福祉協議会が高校受験を控えた娘への援助を行い、彼女も娘との生活を前向きに捉えられつつあった矢先の突然の訃報でした。
彼女の死は、「生き続けたい!」という、無念さ、悔しさや「社会の偏見や差別を無くしてほしい」と訴えているように思います。彼女の残したたくさんの課題を関係者との共同で取り組んでいきたい。
娘さんの言葉です。「お母さんが私の母親で良かった。頑張って生きていた障害者の母から14年間たくさんのことを学べた。お母さんのこと、障害者のことをもっと多くの人に理解してもらいたい。私は、これからも強く生きていきたい」と。

おのころの家



〒656-0025
洲本市本町3丁目1-10
清水マンション1F
TEL・FAX 0799-26-0956

森の木 ファーム



作業の様子

9月、4日間に分けて、南あわじ市にある「森の木ファーム」の職員さん12名が実習に来られました。森の木ファームは、しいたけの栽培・出荷を行っている「就労継続支援A型」の施設です。3人のろうあ者が通所しており、今回の実習目的は、ろうあ者に対する配慮やコミュニケーション方法を学ぶことです。

はたらく連絡会

9月19日(水)、洲本市健康福祉館にて当事者会があり、おのころ屋の利用者H君と出席しました。

淡路市にある「さぬきうどん 幸来(はびくる)」といううどん屋(就労移行支援)で訓練を受けている方々が、その様子を生き生きと話されました。

H君は「自分も接客、販売や製造の仕事をやりたい!」と感想を發表しました。また、はびくるのみなさんがグループホームで自立生活されていることにH君は強い興味を持ったようです。将来、おのころの家もグループホームを建て、仲間と安心して生活できる居場所を提供したいと思いました。

生活指導員・岡本久子

われていました。手話もまだ習得されておらず、一緒に作業していても、遠慮されているという印象を受けました。

目標と気持ちを大切に

一日のみの実習では短すぎると思います。コミュニケーションの手段は手話だけではありません。各自が実習の目的を持ち、「知りたい・伝えたい」という気持ちを大切に頑張っていたらいいと思います。

ろう者が働きやすい環境作りを改めて考えさせられた実習受け入れでした。

内容はともあれ、このような実習がもっと多くの企業・施設で行われることを望みます。

(所長・橋詰一則)

聴覚障害者関連施設部会 研修会



作業所の通所者や地域で暮らすろう重複障害者の実態を知り、知識を深め、私たちが支援できる方法は何か、職員・相談員と共に意見交換する会が9月15日(土)、兵庫県立聴覚障害者情報センターで開かれました。

参加事業所は、神戸ろうあ協会・はりまふくろうの家・たじま聴覚障害者センター・尼崎聴覚障害者センター・たつの作業所・おのころの家でした。

今回は「はりまふくろうの家」が抱えている現状が意見交換の主となりました。

知的障害を持つ50代の中途失聴の女性Aさん。最近視界狭窄が進み、そのことを本人は理解できず精神不安定になっている。

はりまふくろうの家の職員さんはとても頑張っておられました。現状は行き詰っていましたが、各事業所からは自分たちの今までの事例を踏まえてアドバイスがありました。しかし、どれもAさんには難しいものでした。

施設や病院に入れてしまうことはとても簡単です。しかし、どの事業所もそれを回避すべく、家族との関係を維持しながら本人にとって一番良い解決策は何なのかを考えていま

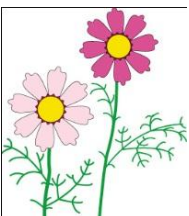
した。利用者の高齢化に伴うグループホームの必要性も語っておられました。住み慣れた地域で社会と関わりながら生活できるような、それを支える人たちがいる。私たちの仕事の重要性を強く実感しました。

事業所が抱える共通の課題

各事業所が共通して抱えている課題があるのではと感じました。それは同じ聴覚障害を持つ人達に作業所の現状を理解してもらい、自分たちの共通の課題としてもらえるようにしていくことです。「行政に私たちが訴えに行った時、健聴者の施設は後援会の方々と大勢で来ていた。私たちは職員だけだった。聴覚障害者は社会的に見て人数が少ない。だから特に団結が大切なのに・・・。」という発言がありました。

2時間の研修では時間が足りませんでした。悩みを相談し合えるこのような場があり、とても心強くなりました。

(生活支援員・森岡 忍)



続・地域を語る

第46回

郷土の生活(くらし)の唄

二題

▽亥の子餅搗(つ)き唄

これほど米の安いのに、亥の子餅搗かんか…
祖父(おんじや)も祖母(ばば)も呼んでこい
鯛の頭の生焼き
サーー エト

※地方によつて猪子祝、亥猪(いのこ)祝ともいわれている。
旧暦十月、初の亥の日にお餅を食べて万病を掃う行事で、その餅を亥子餅、亥猪餅といわれている。

起源は詳かでないが貞観(八四九〜八六三)以前から行われていたという。
亥の子の田の夜、子ども達が藁(わら)で苞(つと)をこしらえ、握るところを丸く作つて、それをふりながら、叩きながら「亥の子」の唄をうたいながら各家々を回る遊びで、子ども達に祝餅を渡したという。また一説に、婦人が猪の多産にあやかつて餅をお供えして神に祈つたともいう。

今では唄を聞くことなく「亥の子」の日が伝承されている。

▽石搗(つ)き唄

この屋敷は目出たの屋敷
枝も栄えて葉も繁る
エート、エートもうしとつ持ち上げてエート、エート
エイと持ち上げてヨ、捨てる時にや五貫じや
売れば値もするノーホイ八貫じや
おもしろのヒョータンや、エート、エートもうしとつ持ち上げてエート、エート

※家を建てる時、まず大黒柱の下に置く石を搗いて地固(ぢがた)めをする。

その後、つぎつぎに柱石を搗いて回るときにうたわれた唄でお酒もまわつて、目出たい文句が次々と唄われていた。

※唄は中川原村史より引用

遊び水あてず! 第7回 ふくろうふれ愛まつり

とき:2012年10月28日(日)

10:00~15:00(小雨決行)

… 今年は二つの会場での開催となります …

淡路ふくろうの郷では・・

開会式は10時からです。今年の目玉は入居者による「ファッションショー」です。自分の好みの色を選び、「私らしさ」をアピールして楽しみたいと思います。

他にも「着ぐるみ」「スタンプラリー」「B級グルメ」「文化展」「お茶会」などなど、子供から大人まで楽しめる企画が沢山あります。美味しい食べ物が並ぶ「模擬店」、歌や踊り等が楽しめる「舞台発表」を予定しています。

中川原ふれあいセンターでは・・

中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンターでは、「SL」「シャボン玉」「バザー」や地域の作品を展示する「文化展」「フリーマーケット」を予定しています。

多くのみなさまのご参加をお待ちしております。

○お問い合わせは、実行委員会事務局まで

TEL:0799-25-8550 FAX:0799-25-8551

メール fukurou-sodan2960@ever.ocn.ne.jp

担当 船越・石川・竹原

看護師募集中です

淡路ふくろうの郷では看護師を募集しています

◆正規初任給 219,000円(経験加算有り)

◆賞与 年2回(前年度実績3.5ヶ月)

○お問合せ:淡路ふくろうの郷(八木)まで

電話 0799-25-8550

舞台発表団体(順不同)

大野民謡教室

洲本市立中川原保育所

ゆめの鈴

厚浜郷土芸能保存会

三原高校

テフあわじ連

中川原小学校

淡路ふくろうの郷

模擬店参加団体

	団体名	内容
島内	1 tenten屋	フランクフルト・から揚げ・ジュース
	2 市原青空会	野菜販売
	3 おのころの家・おのころ屋	手作り品・海産物・カレー・お菓子・パン
	4 富士整体院	整体
	5 池田商店	ピンス焼き
	6 手話サークルあわじ	クレープ
	7 NPO法人 ぶったあ福祉会	菓子・花・さおり織り
	8 手話サークル津名	海鮮焼・漁師鍋
	9 手話サークル三原	フルーツ白玉
	10 淡路聴力障害者協会	エコせっけん・海産物
島外	11 豊岡ろうあ協会	から揚げ
	12 新日本プロセス(株)	お好み焼
	13 NPO法人神戸ろうあ協会 垂水支部	チヂミ焼き
	14 NPO法人尼崎ろうあ協会 たつのご工房	うどん・そば茶・コーヒー・ハーブティ・小物販売
	15 (社)兵庫県聴覚障害者協会青年部	軽食
	16 兵通研 事業班	書籍販売
	17 たじま聴覚障害者センター	飲み物・自主製品
	18 丹波ろうあ協会	黒まめ・さつまいもスティック
	19 美作ろうあ協会	ホルモンうどん・バザー
	美作ろうあ協会	手作りバザー
	20 ひょうご聴障ネット	手作りケーキ・入会受付・ふくろうカレンダー
	21 神戸聴覚特別支援学校 同窓会	ストライク・アウトゲーム
	22 社団法人兵庫聴覚障害者協会	出版関連
	23 地域活動支援センター・やまもも	自主製品・アイラブ焼
	24 兵庫県盲ろう者友の会	物品販売・おしゃべり体験
	25 淡路三原高校	シャボン玉・空気砲
	26 SL	
	27 ふくろう調理	カレー・おでん・コロッケ
28 ふくろう作業	販売	